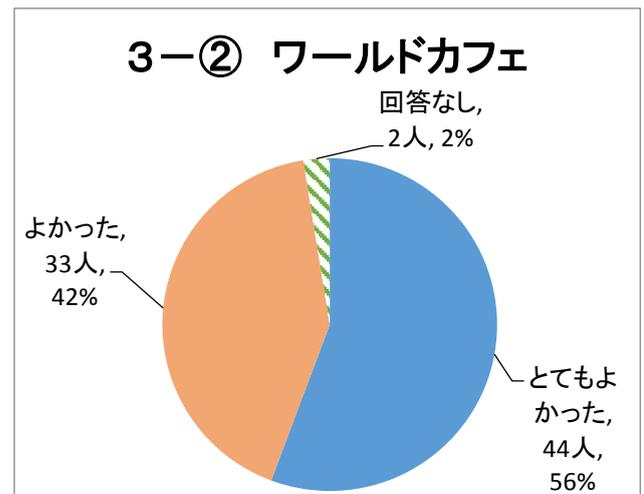
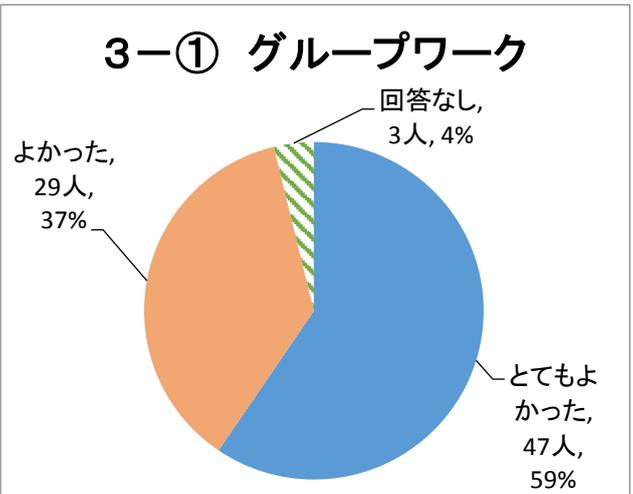
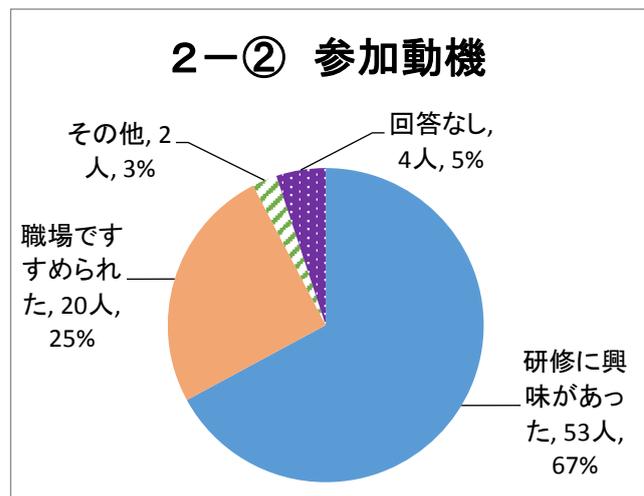
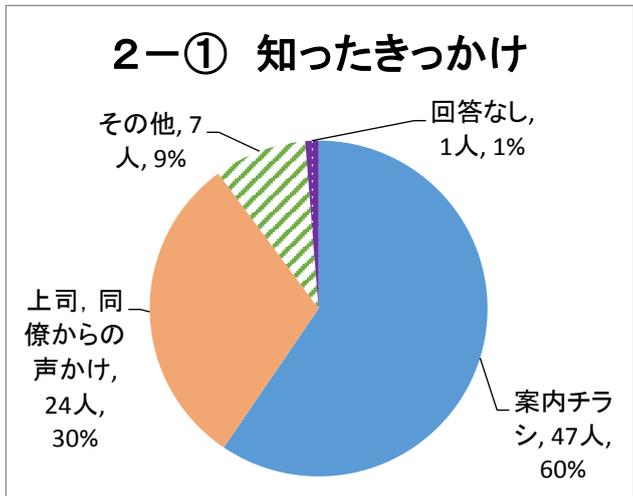
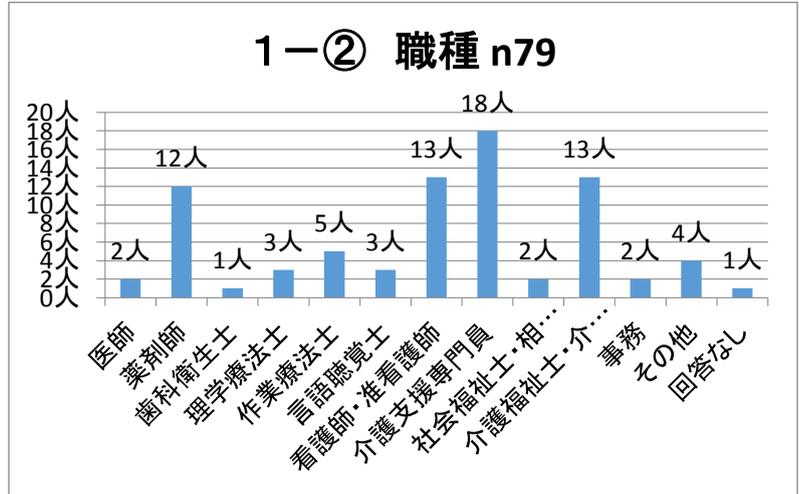
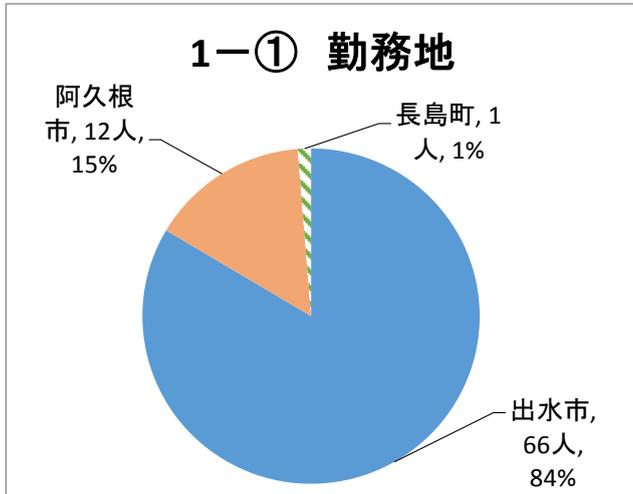


平成29年度 出水地区在宅医療・介護連携推進に係る多職種交流研修会

1月30日(火) 出水市中央公民館

参加人数 107名(研修広報班19名含む) アンケート回答 79名 回答率 89.8%



3-③ 研修会についての意見

- ・他職種の視点の違いを知ることができ、色々な意見が聞けてよかった。(他27件)
- ・初めての参加でしたが、皆さんが様々な視点での意見を出し問題点への改善が見出された。(他1件)
- ・事例の内容をもう少し詳しく(整理して)書いてほしい。(他1件)
- ・事例の本人の背景や人生の歩みなどわかるともっと話が進む。
- ・専門用語の解説が欲しかった。
- ・KJ法でカテゴリー分けする際、何の視点で意見を出すか決めてあるといい気がした。
- ・KJ法に慣れていないグループはスタートで話が止まるので具体的な例を見せて頂けると良かったです。
- ・毎回参加していますが、色々な職種が交流できるこの研修は充実します。
- ・回を重ねるにつれてワールドカフェ方式の良さがわかってきた。
- ・発表されたグループ以外の意見(表の写真)も何かの方法で拝見できたらいいなと思います。(他1件)
- ・時間がもう少しほしかった。(他6件)
- ・あと1回くらいグループ移動ができれば多職種の方の意見が聞け、より多くの方と顔見知りになれたと思う。(他2件)
- ・自己紹介の時間がほしかった。せっかく普段一緒に仕事できない方々と会うので繋がりたい。
- ・通常業務後では時間が遅く負担が大きい。多職種が集まるためには日曜の昼間の方が良いと思う。
- ・志向を変えてほしい。
- ・寒かったので時期や場所を検討してほしい。

4. 在宅医療・介護連携推進のために取り組んでいることや日頃感じている課題等

- ・食べることへの支援は健康維持、増進の要であると思いつつ日々活動している。
- ・必要に応じて退院調整会議等を早期から実施できるようにする。
- ・なるべく本人や家族の意向を尊重し、疑問を持たれないような説明を行っている。他1件
- ・職員が同じ目標で動いている。
- ・傾聴と共感を心がけ寄り添った介護に取り組んでいる。
- ・その方の意欲を引き出すために1人1人との関わりを大切にしている。
- ・病院からの連携の取り方、どのような情報がほしいか知りたい。(身体能力や本人、家族の関係など)2件
- ・多職種連携(各施設間、職種間の連携)他1件
- ・地域密着(ご近所付き合い等の必要性)他3件
- ・評価とそれらを伝える能力の向上
- ・家族との繋がりの大切さ、1人暮らしの方への対応他1件
- ・出水市内にデイサービスが多くあり、空きが色々なところであると聞きます。
- ・社会資源が整っていない(訪問診療の病院が少ない)他1件
- ・多職種の方々との顔の見える付き合い。一職種で悩みを抱え込むことがないようにと思います。
- ・高齢者の方が増えている中で利用に繋がる戦略がどのようなものか常に課題です。
- ・在宅へ薬局薬剤師が行けることをあまり知られていないと感じるので頑張らないと思う。(他2件)
- ・薬剤師として重複投与、残薬の確認、またアドヒアランスの向上に取り組んでいるのもっと薬剤師を医療資源として使ってほしい。
- ・他職種の方々と意見交換の場があまりないので増やしてほしい。
- ・業務から離れて交流会や懇親会の場があったら良いと思う。

5. 在宅医療・介護推進のための具体的な要望

【住民向け講演会】

- ・どんなサービスがあるか
- ・病気の理解を深める講演
- ・在宅介護と施設の併用

【医療・介護職への研修会】

- ・どんなサービスがあるか事業所の案内
- ・在宅の困りごと、心配事を知る研修
- ・医療面で介護士ができるようになったことの研修
- ・地域包括ケアについて
- ・災害支援、災害時対応について
- ・在宅看取り

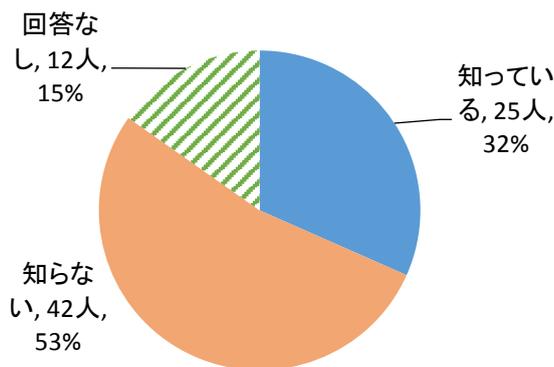
【その他】

- ・福祉フェスタなど

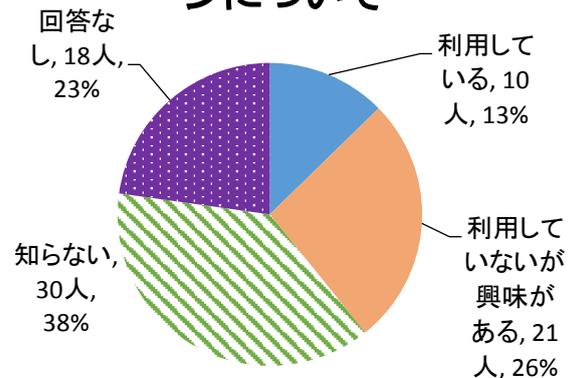
7. 資源マップに追加してほしい内容

- ・最新の空き情報など
- ・在宅での買い物方法
- ・レスパイト

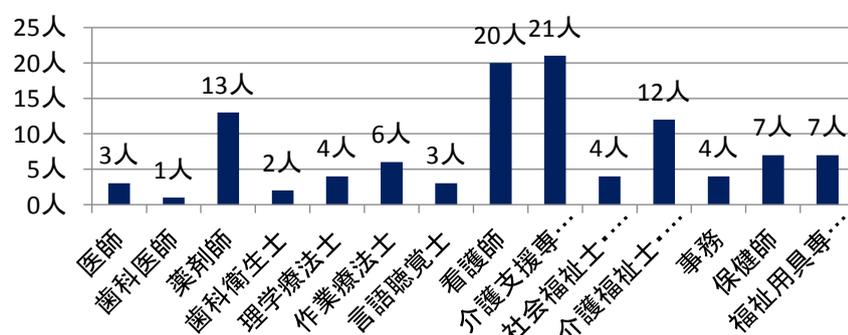
6. 資源マップの掲載を知っていますか？



8. MCS:INAサポートラインについて



出水市多職種交流研修会 職種別出席数 n107



考察・その他

- ・出水での研修が3回目となり、60%以上の方に興味を持って頂き参加者が多かった。
- ・薬剤師の参加が多かった。在宅医療を進める上でH26に実施したようなそれぞれの職種の役割についての周知も必要か。
- ・資源マップやINAサポートライン等の認知度もまだ低い為、情報共有ツールとしての広報が必要。(INA便り3月発行予定)